

## 函館市の学校教育推進の指針

平成24年度

# アプローチ

54号

～より確かな教育のために～

### 函館市義務教育の基本理念

**心豊かに学び 共に未来のふるさとを拓く子どもをはぐくむ**

学校教育推進の指針である「アプローチ」は、「函館市義務教育基本計画」の実現を図るため、年度ごとに重点を定め具体方策等を示しているものです。

平成24年度は、これまで2年間の「『確かな学び』の実現」のまとめの年とするとともに、基本計画の5年目を迎え、前半の節目となることから、以下の重点を定めました。

平成24年度 学校教育の重点

**「『確かな学び』を実現する取組の検証と定着」**

～つながり合い、共に学びをはぐくむために～

『確かな学び』とは、子ども自らが意欲をもって、主体的に学習活動に取り組み、筋道を立てて考え、豊かに表現し、生活や社会で必要な知識や技能を身に付け、学習する意義や価値を見出す一連の営みです。

この『確かな学び』を実現するため、学校教育では、子ども同士や子どもと教師が信頼し合う温かな学級の中で、一人一人に応じた指導を工夫し、わかる授業を展開するとともに、指導力向上を図る校内研究を充実させることや、家庭と共に基本的な生活や学習の習慣を確立することが求められております。

こうしたことから、本市では、函館市学力向上プラン「学力をはぐくむ4つ葉」に示した実践事項の中から、平成24年度においては、「学びの連続性を重視する」「『わかる授業』を積み重ねる」「自主的な学びをはぐくむ」「学校と家庭が共に育てる」に重点を置き、知・徳・体の調和のとれた教育活動を推進し、子どもの『確かな学び』の実現を目指します。

# 函館市の学校教育の充実に向けて

私たちは、平成20年度にスタートした「函館市義務教育基本計画」に基づき、地域とともに、子どもたちの「生きる力」をはぐくむ教育を進めています。今後とも、新しい学習指導要領や時代の要請を踏まえ、函館の教育の一層の充実を図ります。

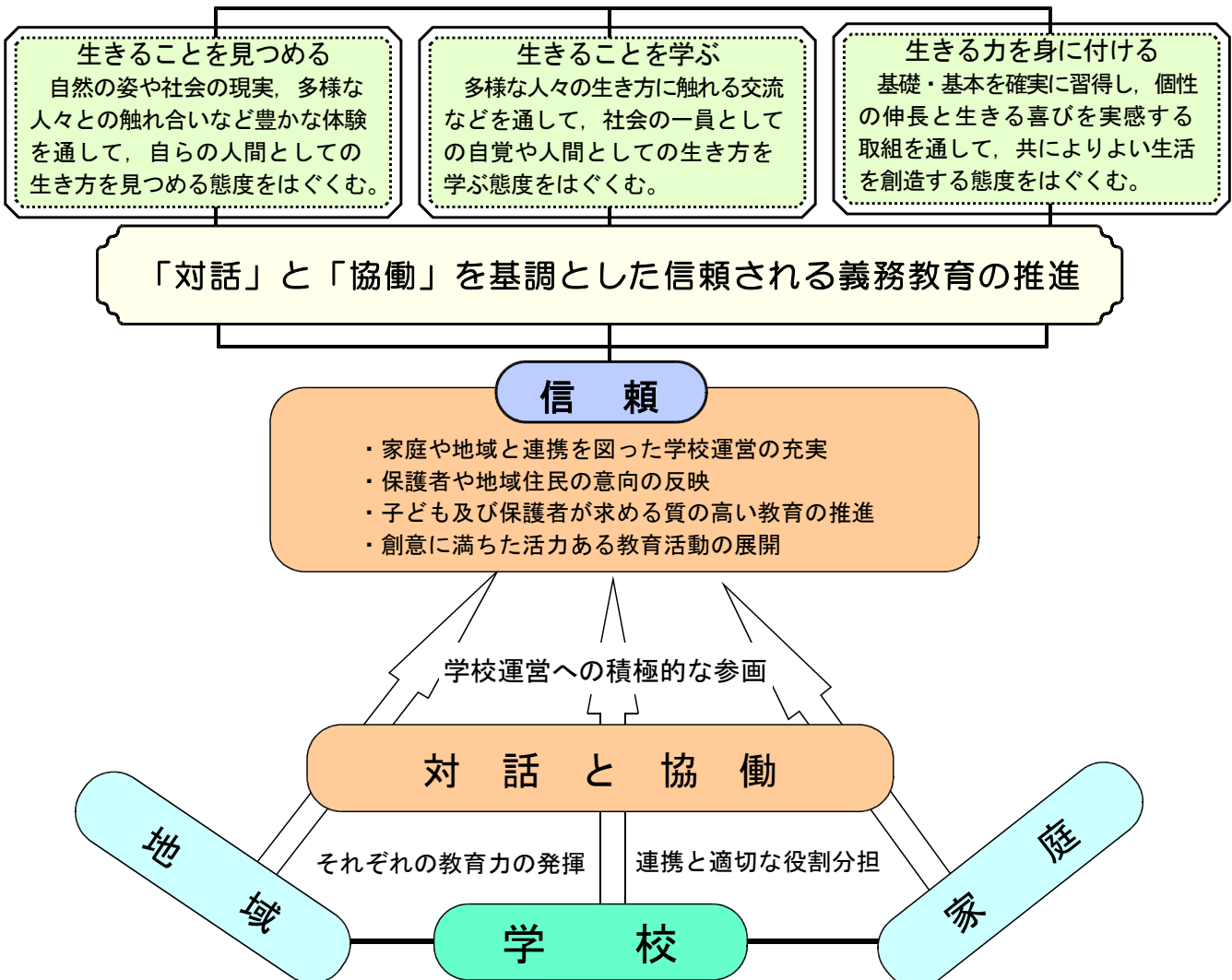
## 〈函館市義務教育の基本理念〉

### 心豊かに学び 共に未来のふるさとを拓く子どもをはぐくむ

めざす子ども像

- **個性豊かに生きる子ども**  
「確かな学力」を身に付け、個性や創造性を発揮し、自らの生き方を創り出す子どもをはぐくみます。
- **優しさをもって生きる子ども**  
責任とモラルを重んじ、他者を思いやり、人間尊重の精神や自他の生命を大切にすることを学ばせ、子どもをはぐくみます。
- **たくましく生きる子ども**  
健やかな心と体を持ち、理想や自己の目標に向かって努力する活力に満ちた子どもをはぐくみます。
- **函館に生きる子ども**  
ふるさとのよさを見付け、誇りをもち、先人の生き方に学び、進取の精神をもって新たな文化を創造する子どもをはぐくみます。
- **共に未来を生きる子ども**  
社会の変化に主体的に対応する力を持ち、広い視野に立って社会に貢献する子どもをはぐくみます。

### 基本姿勢 生きることを見つめ 生きることを学ぶ学校教育の創造



## 函館市の目指す子どもの姿と具体方策

### 個性豊かに生きる子ども

#### 推進項目

- 1 函館の子どもたちの実態をとらえ、子ども一人一人に応じたきめ細かな指導の充実に努めます。
- 2 学ぶ意欲を高め、生き方を考える指導の充実に努めます。
- 3 論理的な思考力や判断力、表現力などの育成を図る学習活動の充実に努めます。
- 4 生きる力をはぐくむ「総合的な学習の時間」の充実に努めます。
- 5 子ども一人一人のニーズに応じた特別支援教育を推進します。

現在、本市の学校は、学力向上に向け、言語環境の整備や言語活動の充実、読書活動の工夫のほか、放課後や長期休業中の学習機会の設定などに取り組んでいます。

各種調査結果からは漢字を読むことや四則計算の技能などには定着が見られるものの、決められた条件の中で自分の考えを効果的に伝えることなど、筋道を立てて考えを整理したり、身に付けた知識を生かすことに課題が見られます。

したがって、各学校においては、きめ細かにとらえた子どもの学力の実態に応じて全校で取組を工夫するとともに、その成果を積極的に発信して検証や改善に生かし、授業の一層の充実に努めます。

#### 1 学力向上に向けた組織的な取組

- ◎ 自校の子どもの実態をきめ細かにとらえ、よさを伸ばし、課題を解決するための方策を全教職員で共有し、学校全体で授業改善に取り組めます。

例) ・各種調査結果を、得点や正答率だけでなく、誤答の傾向や無解答の状況等まで詳細に分析する。

- ・改善の方策を校内研究と関連付けるなど、全教職員で取り組む内容を具体化する。
- ・どのように書けば正答であったか解答のモデルを示すなど、子どもが解答の不十分さに気付いたり、自分の考えのよさや課題を振り返ったりすることができるような場を設定する。

→ 平成24年2月公表『平成23年度全国学力・学習状況調査を活用した北海道における学力等調査』結果 函館市の概要(函館市教育委員会)

→ 平成24年3月「函館市学習状況調査実施報告書」(函館市学力向上プロジェクト推進委員会)

- ◎ 自校で実現を目指す「確かな学び」の具体的な要素や、そのための方策を明確に示し、理解や協力を得たり、連携を図るため、取組を積極的に発信するとともに、その成果や課題を指導の改善に生かします。

例) ・自主公開研究会の開催

・校内研究や実践の成果をまとめた論文の執筆

・子どもや保護者による授業評価

・公開の視点や意図を明確にした地域公開実践※の実施

※従前の地域公開授業を工夫し、意図や目的を明らかにして、学校の取組を発信する実践(説明会の位置付けや「指導のポイント」の配布など)

- 学習内容の確実な定着を図るとともに、学習習慣を身に付けさせるための取組を推進し、一人一人に応じたきめ細かな指導の充実に努めます。

例) ・放課後や長期休業など授業以外の学習機会の設定 ・授業と関連を図った家庭学習の内容の工夫

- ・家庭学習の成果や課題を次の学習に発展させる適切な評価の工夫

## 2 目標を実現する授業改善の推進

- ◎ 目標を吟味したり評価規準を適切に活用するとともに、評価方法を工夫し、子どもの学習の状況をきめ細かに把握して、指導の改善を図ります。

例)・単元や1単位時間の目標について、確実に身に付けさせたい力は何か、どの観点として整理されるのかなどを明確にする。

- ・評価の観点に応じて、子どもの知識や能力等の学習状況を判断するためにふさわしい評価方法(ペーパーテスト、ワークシート、作品、ノート等)を検討する。

- 学習評価について教職員間で研修を深め、評価資料から子どもの学習状況を適切に判断したり、評価結果を受けた事後の指導の充実を図り、評価を指導に生かす授業づくりを推進します。→平成22年3月「わかる授業づくりに向けて～学習指導のポイント10」(函館市教育委員会)

→平成22年・23年「評価規準作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」(小学校・中学校)

(国立教育政策研究所教育課程研究センター)

→平成23年8月「平成23年度小学校(中学校)教育課程編成の手引き～指導と評価の充実～」北海道教育庁

## 3 学ぶ意義を実感させ、生き方を考えさせる指導の充実

- 体験的な学習や問題解決的な学習を充実し、子どもが興味・関心をもって主体的に学習に取り組み、学ぶことの楽しさや達成感を実感できるような指導を工夫します。

- ◎ 子どもや学校、地域の実態や特色に応じて、育てたい資質や能力・態度の育成につながる総合的な学習の時間の全体計画や年間指導計画等を工夫し、教科で身に付けた力を発揮して探究的な学習が展開されるような単元構想や学習過程の改善・充実を図ります。

→平成22年「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」(小学校・中学校)(文部科学省)

- 学校・家庭・地域の一員としての役割を果たすことを通して、自分のよさや得意分野に気づき、それを生活に生かそうとする態度をはぐくんだり、職場見学や職場体験等を通して、発達段階に応じた望ましい勤労観や職業観が形成されるよう、自己の現在や将来の生き方を考える指導を推進します。→平成22年 1月「小学校キャリア教育の手引き」文部科学省

→平成23年 3月「中学校キャリア教育の手引き」文部科学省

→平成23年11月「高等学校キャリア教育の手引き」文部科学省

## 4 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進

- ◎ すべての子どもの教育的ニーズに応えるため、特別支援教育支援員を有効に活用したり、支援体制を整備するとともに、函館市特別支援教育サポート委員会をはじめ、特別支援学校や医療・福祉等の関係機関と連携を図り、支援の充実を図ります。

- 校内就学指導委員会を十分に機能させるとともに、個別の指導計画や個別の教育支援計画を活用し、学校種間の円滑な連携を図ります。

→平成21年3月発行「一人一人のニーズに応じた特別支援教育を目指して」(函館市教育委員会)

# 優しさをもって生きる子ども

## 推進項目

- 1 豊かな心をはぐくむ道德教育の充実に努めます。
- 2 生命を尊重し、命の大切さを実感させる学習活動の充実に努めます。
- 3 心に響く体験等を通して、自他の理解を深め、よりよい人間関係を醸成する指導の充実に努めます。
- 4 いじめ、不登校や様々な問題行動に適切に対応します。

現在、本市の学校は、子どもたちに豊かな心をはぐくむために、子どもが生命の大切さを実感できる体験活動の工夫や、いじめ撲滅に向けた子ども主体の取組の推進に努めるとともに、地域や関係機関との連携に努めています。

しかし、豊かな心をはぐくむためには、常に道德教育を中心とした指導改善に努めるとともに、いじめ、不登校や様々な問題行動等に対応し、子どもたち一人ひとりを大切にした指導の一層の充実に努める必要があります。

したがって、各学校においては、子どもや学校、地域の実態を踏まえ、道德性をはぐくむための指導計画の充実や、共感的な理解を基盤とした教育相談の充実に取り組みます。

## 1 豊かな心をはぐくむ学習計画の整備・充実

- ◎ 子どもの豊かな心をはぐくむために、道德教育推進教師などを中心として、「道德の時間」の年間指導計画の改善・充実に努めるとともに、各教科との関連を明らかにした道德の全体計画と評価計画の充実に努めます。

例) ・学校評価を踏まえた、道德の全体計画や、道德の時間の年間指導計画等の改善  
・担任、教科担当者、生徒指導担当者等による道德教育推進のチームによる道德の全体計画の改善と充実  
・道德の授業公開等を通じた、家庭や地域との連携を図った指導 など  
→ 心に響き、共に未来を拓く道德教育の展開・道德教育推進資料(文部科学省)  
→ 平成19年3月発行「一人一人に豊かな心を育む道德教育を進めるために」(函館市教育委員会)

## 2 自他の生命を尊重し、よりよい人間関係を醸成する教育活動の推進

- 生命あるものすべてに対する感謝の心や思いやりの心をはぐくみ、他者とのかかわりの中で互いを尊重する道德教育を推進するとともに、特別活動や教科においても、人間関係をはぐくむ活動の充実に努めます。

例) ・生活科、理科、家庭科、技術家庭科、体育科、保健体育科などの「健康や安全、生命」にかかわる学習と道德の時間の学習内容を密接に結び付けた指導 など

## 3 心に響く体験を通して、子どもの内面に根ざした道德性を育成する道德教育の充実

- 子どもに地域の行事への積極的な参加を呼び掛けたり、成就感を味わうことができる体験活動の充実に努めるとともに、多様な人々とふれ合う場を保障します。また、体験活動で感じたことを引き出すような場の設定に努めます。

例) ・体験などから感じたこと、考えたことをまとめ、書いたり、発表し合ったりしながら一人一人の感じ方や考え方を表現する指導の充実(心のノートの使用) など  
→ 平成23年3月発行「子どもの豊かな心をはぐくむ道德教育の充実を目指して」(北海道教育委員会)

## 4 共感的な理解を基盤とした、教育相談の充実

- ◎ いじめや不登校等の未然防止や早期発見・早期対応のため、子どもが日常的に相談できる教育相談の場を充実させるとともに、専門家や関係機関等を活用して、子どもに寄り添い共感的な理解を深める研修の充実に努めます。

例) ・教育相談週間の設定や、相談ルームの設置  
・児童会や生徒会による、「いじめ」防止の活動の充実  
・スクールカウンセラーや医療関係者、保護司や児童相談所、市教委などの外部講師による校内研修(不登校等への対応) など  
→ 学校で使える学校適応促進のための校内研修プログラム (函館市南北海道教育センター)

<http://www.nanse.hakodate-hkd.ed.jp/~nanse/kounai-pro>

# たくましく生きる子ども

## 推進項目

- 1 健やかな心身を育てる健康教育の充実に努めます。
- 2 運動することの楽しさを実感できる学校体育の充実に努めます。
- 3 性や薬物に対する理解を深め、望ましい実践力を高める教育の充実に努めます。
- 4 安全・安心な生活について自ら考え、自ら行動する態度をはぐくむ安全教育の充実に努めます。

現在、本市の学校は、運動や生活の状況にかかわる各種調査やアンケートの結果に基づき、子どもの実態や学校の取組の状況を把握し、指導の改善に取り組んでいます。

しかし、子ども自身が、健康や安全についての意識を高め主体的に実践することや、発達段階に応じた指導計画の改善には課題が見られます。

したがって、各学校においては、運動に子どもが親しんだり、自らの健康に対する関心を高める指導を充実するとともに、子どもが安全・安心な生活を送るために、家庭や関係機関、地域との連携を深め、子どもの実態や発達段階を踏まえた意図的・計画的な指導を進めます。

## 1 自らの健康に関する関心を高め、望ましい実践力をはぐくむ教育の充実

- ◎ 自らの健康に関する関心を高め、望ましい実践力をはぐくむために、子どもの実態や発達段階を踏まえた指導計画を作成し、意図的・計画的な指導を工夫します。

例) ・学校保健計画      ・食に関する全体計画      ・栄養教諭や養護教諭との協力体制

- 運動することの楽しさや、進んでスポーツに親しもうとする意欲を高めるため、地域等との連携を図ったスポーツ活動を推進します。

→ 「健康・体力づくり一校一実践運動」

→ 「子どもの体力向上ホームページ」 <http://www.recreation.or.jp/kodomo/index.html>

(日本レクリエーション協会：文部科学省委託)

## 2 安全な生活について自ら考え、自ら行動する態度を育てる指導の充実

- ◎ 子どもたちが自ら考え、望ましい行動をとることができるよう、健康や安全にかかわる意図的・計画的な指導を推進します。

例) ・学校保健委員会の取組の充実と活性化      ・学校安全計画の改善

・危機管理マニュアルの見直しと周知徹底

→ 「平成22年度 学校安全読本」 [http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ssa/anzen\\_dokuhon.htm](http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ssa/anzen_dokuhon.htm)

(北海道教育委員会)

- ◎ 主体的に実践する態度をはぐくむ指導の充実を図るため、家庭や関係機関等との連携を深め、子どもたちの発達段階を踏まえた指導を充実します。

例) ・町会やPTA等の地域や関係機関の協力を得た、防犯、防災対策の強化

・学校、家庭、地域、関係機関が情報交換を行う場の設定

・警察や保健所、病院等の関係機関および地域と連携した取組

(防犯教室や交通安全教室、薬物乱用防止教室、防災訓練、防災教室などの実施など)

→ 「学んDE防災」 [http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ssa/manan\\_de\\_bosai.htm](http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ssa/manan_de_bosai.htm) (北海道教育委員会)

## 函館に生きる子ども

### 推進項目

- 1 ふるさと函館のよさを発見し、多様な生き方を学ぶ教育の充実に努めます。
- 2 函館市民としての意識を高め、まちづくりの意欲を高める指導の充実に努めます。

現在、本市の学校は、家庭や地域の人々の協力を得て、地域性を生かした様々な教育活動を推進しています。しかし、子どもたちの地域行事への参加率が依然として低いなど、地域の方々との日常的なかかわりは十分とは言えません。

今後は、地域の方々の力を積極的に学校教育に取り入れ、子どもたちが地域の一員としての意識やまちづくりへの意欲を高め、函館の学びの伝統を受け継ぐ教育活動を推進します。

### 1 ふるさと函館の特性を生かした体験活動の充実

- 地域の人々とのふれあいや、社会教育施設、史跡の見学などを通して、函館の自然やこれまでの歴史で育まれてきた国際性、函館のまちを創造してきた人物などについて学習したり、生活の営みに直接触れる活動や、函館の特色を生かした多様な体験活動を通して、ふるさと函館への関心を高め、愛着や誇りをもてるような学習活動を推進します。

例) ・西部地区のフィールドワーク ・中央図書館の活用  
・函館市縄文文化交流センターや箱館奉行所、博物館などの見学 など

### 2 ふるさとの伝統文化や芸術に触れる体験活動の充実

- 地域の行事や体験学習への参加、文化や芸術など豊かな情操を養うための地域人材の活用などを通して、伝統文化や芸術に直接触れ、ふるさとの文化や伝統についての理解を深める学習活動を推進します。

例) ・文化芸術のアウトリーチ事業の活用 ・ゲストティーチャーの積極的な活用  
・「イカール国際ミュージックキャンプ」事業の活用 ・地域行事などへの参加 など

## 共に未来を生きる子ども

### 推進項目

- 1 人間尊重の精神に基づき、人権意識を高める教育の充実に努めます。
- 2 社会情勢の変化を踏まえ、今日的な教育課題に積極的に対応する教育を推進します。

現在、本市の学校は、社会の変化を踏まえ、国際理解に関する学習や情報活用能力を身に付けさせる指導の充実に努めています。しかし、いじめやネットトラブルにかかわる取組の徹底など、今日的な教育課題に積極的に対応することが必要です。

今後は、家庭と連携した情報モラルの育成など、主体的に判断し、行動できる資質や能力を一層高める教育活動を推進します。

### 1 多様な体験を通して福祉についての理解を深め、共に生きる心を育む体験活動の充実

- 実践的な福祉活動や、地域素材の活用、家庭・地域との連携を図った活動を通して、福祉に対する理解を深め、共に生きることの尊さや、心豊かに生きる社会を築く態度を育成するための取組を充実します。

例) ・ノーマリー教室の実施 ・地域の福祉施設との交流 など

### 2 今日の課題に積極的に対応する取組の充実

- 我が国の文化・伝統についての理解を深めるとともに、他国の歴史や文化を尊重する態度を育成するために、他国の言語や文化に触れる機会を設け、異文化への興味関心を高めるとともに、平和を求める態度を育成するための取組を充実します。

例) ・小学校外国語活動研究モデル校等の実践を参考とした取組 ・AETの効果的な活用

- ◎ 携帯電話やインターネット等を適切に利用できるよう、学校・家庭・地域社会・関係機関が連携しながら、具体的で実効性のある指導を行うとともに、保護者との共通理解のもとで情報モラルを育成するための取組を充実します。

例) ・中学校入学説明会や小学校の懇談会での保護者への情報提供  
・道徳の時間や技術・家庭科の授業における情報モラル教育の充実 など

- 各教科や総合的な学習の時間での自然体験や社会体験活動を通して、環境問題について考え問題解決のために行動する態度を育むとともに、生涯を通じて省資源や省エネルギーの問題などに、積極的に取り組むことができる実践力を育む環境教育の推進に努めます。

例) ・青少年教育施設の問題環境や自然の大切さを学ぶプログラムへの参加  
・各教科や、総合的な学習の時間の取組の充実 など

平成24年度 学校教育の重点

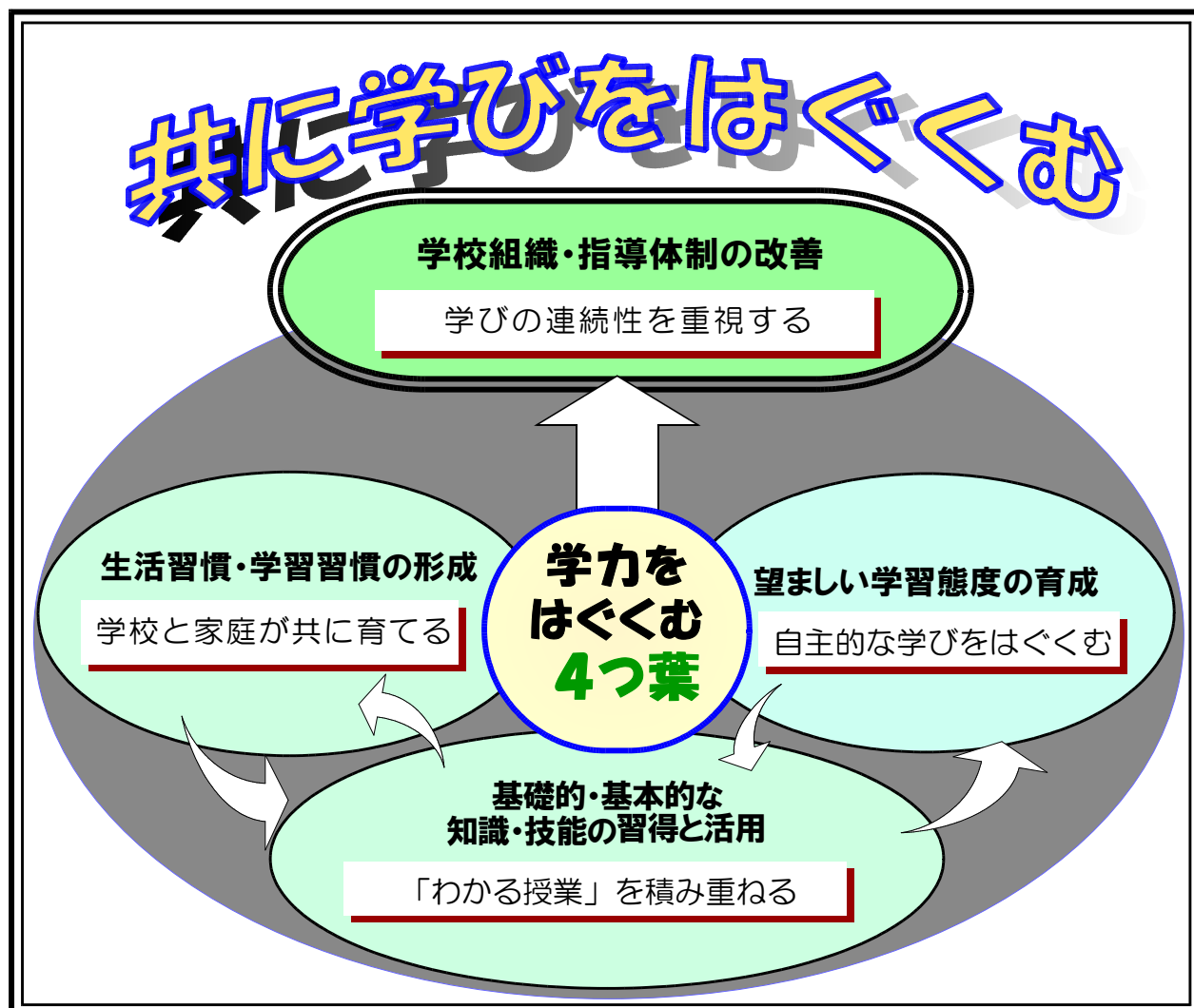
「『確かな学び』を実現する取組の検証と定着」

～つながり合い、共に学びをはぐくむために～

「子どもたちの『確かな学び』を実現する」ためには、自校の取組を検証し、成果と課題を明らかにしながら、子どもの実態に照らして継続的に改善を図ることが重要です。その際、一つ一つの取組を見直すことはもとより、全体を俯瞰し、各々の取組を関連付けたり、組織的に取組の焦点化を図ったりすることが大切です。

また、『確かな学び』を支えるため、子どもが学ぶ意欲をもち続け、主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、安心して学習できる環境づくりに努め、家庭や地域との相互理解のもと、共に子どもの学びをはぐくんでいきましょう。

そこで、今年度は「つながり合い、共に学びをはぐくむために」をサブテーマとし、「学力をはぐくむ4つ葉」から以下の重点事項を示しています。





## 学びの連続性を重視する

『確かな学び』を実現するためには、9年間を見通した各教科や領域等における系統性や、教科・領域等間における関連、さらには学校間の円滑な接続に配慮して、指導計画を見直したり、指導内容や指導方法を改善し、子どもの自主的・自発的な学びにつなげることが大切です。また、年間を通じて校内研究を計画的に進め、授業改善に確実に結び付けたり、教育活動や研究実践を積極的に公開し合い、効果的な取組を他校と共有することも有効です。

### 視点1 「子どもの学びの連続性」

#### Step1 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

- 学年間の系統性を確認し、学年相互の関連を図り、指導の効果を高める。
  - 例) ・自校で課題のある領域を取り上げ、全学年で同じ系統の指導事項について重点的に指導する。
  - ・各種調査後に、授業で同じ問題を取り上げて解き方を確認したり、自校で採点をしたりして、自校の課題をとらえ、その後の指導に生かす。
  - ・調査結果等から誤答や無回答の多い問題を把握し、その基盤となる指導事項について、各学年で確実に定着を図るよう繰り返し学習する。
- 目標や指導内容の関連を確認し、各学校の実態に応じて指導計画を工夫する。
  - 例) ・指導内容の重複の必要性を検証する。・意図的に指導の時期を調整し、学習の目的を明確にする。

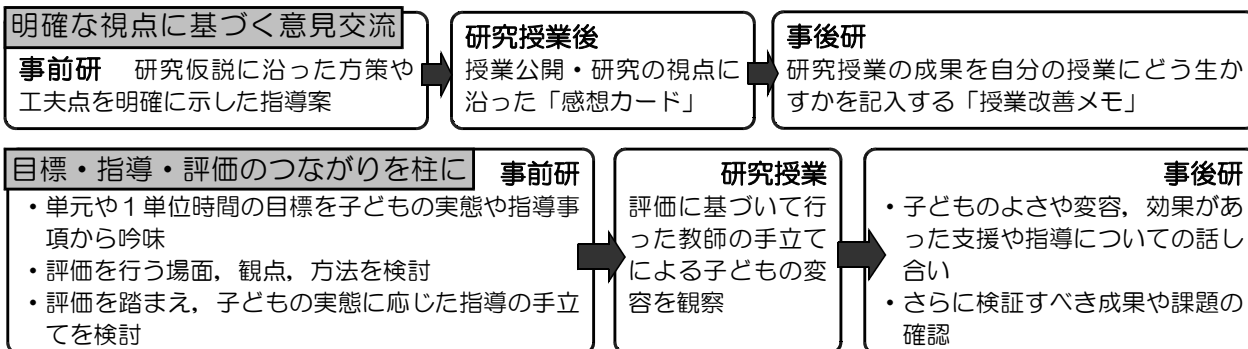
#### Step2 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

- 例) ・学習意識調査で特徴的な結果が出た設問について、全学年で調査を行い、検証する。
- ・各学年における指導事項が確実に定着するよう、繰り返しの学習や補充・発展的な学習を取り入れるなど、学校全体で学習の成果を積み上げていくような工夫を行う。
- ・幼小中高と校種を越えた見通しをもち、教育課程の連続性や円滑な接続に配慮する。

### 視点2 「教師の学びの連続性」 ～年間を通した校内研究の活性化～

#### Step1 校内研究の進め方を見直す

- 全員が能動的に参加し、意見を交換できる場の設定
  - 例) ・ワークショップ型の研究協議 ・学年やブロック単位など少人数による参観・協議
- 事前・事後研の効果的・効率的な運営



- 校種間連携の活用
  - 例) 学校間の情報交換により、課題を共有し、連携の視点を明らかに
    - ・中学校区の学校間での相互の授業参観
    - ・小中合同の研修会
  - 例) 指導法や学習活動などを理解し、円滑な連携・接続を
    - ・異校種の教員による交換授業や出前授業の実施
    - ・相互の教育課程にかかわる情報交換

#### Step2 授業公開や外部への公開・発信を生かす

- 客観的な意見や助言の活用
  - 例) ・校内研修への外部講師の招へい ・参観日などにおける保護者や地域住民へのアンケートの実施
- 明確な意図をもった家庭や地域への公開
  - 例) ・自主公開研究会を開催し、校内研究の取組と成果を発信
  - ・地域公開実践において、重点教育目標や経営の重点、具体的な取組などを説明する場を設定

## 「わかる授業」を積み重ねる

子どもの『確かな学び』を支えるためには、子どもが『わかった』、『できた』と実感する教育活動を継続することが大切です。その実現に向け、一人ひとりの教員が、ねらいを焦点化した授業を展開するとともに、その成果を全校で検証し、組織的な授業改善へとつなげることが必要です。また、目標に重点を置いた授業づくりや校内研究を進め、その取組を効果的に発信していくことが、重要です。

### 視点1 学級担任・教科担任として取り組む「わかる授業」のポイント

#### これだけは ～毎時間、必ず取り組んでみること～

##### 「実現させたい本時の目標を明確にしましょう」

- 例えば・目標の実現状況を子どもの姿で表し、本時の目標としてわかりやすい言葉で提示する。
  - ・本時の評価規準を教員と子どもで共に確認する。
  - ・本時の目標と正対した1時間のまとめを行う。 など

#### さらに一歩 ～単元に複数回は取り組んでみること～

##### 「主体的に学習内容をまとめさせましょう」

- 例えば・子どもの言葉で学習内容をまとめ、教員のまとめと比較させる。
  - ・振り返りカード等でまとめた内容から、理解の状況を把握したり、授業評価に生かす。
  - ・ノート等にまとめた内容から、子供の状況を把握し、個別指導や繰り返しの指導を行う。 など

#### より確かに ～単元に1時間は取り組んでみること～

##### 「子どもが自ら考えたり、判断したりする活動を取り入れましょう」

- 例えば・文字数や時間、テーマ等を明確にした上で、自分の考えを書かせたり、説明させる。
  - ・ペアやグループで話し合い、お互いの考えの共通点や相違点を見い出させる。
  - ・話し合いによって、新たな考えや方法を見付けさせる。 など

### 視点2 教務・研究担当として取り組む「わかる授業」のポイント

#### これだけは ～機会あるごとに、共通理解を繰り返すこと～

##### 「目標の実現状況を授業の改善に生かしましょう」

- 例えば・評価規準を授業参観の観点として示す。
  - ・子どもの目標を実現できたかどうかを研究授業の視点として位置付ける。
  - ・目標の実現状況を改善する手だてを研究協議の視点（柱）とする。 など

※子どもたちの「目標の実現状況」に着目して相互に参観し、授業改善に生かしましょう。

#### さらに一歩 ～自校の学力向上プランの実践と検証に取り入れること～

##### 「学力向上の取組の発信を工夫しましょう」

- 例えば・学習状況調査報告書や指導資料を用い、全市的な状況と自校の状況を比較する。
  - ・webページや学校便り、学級便り等で、学力向上のための取組や成果を発信する。
  - ・地域公開実践を設定したり、近隣校の教員と研究授業の相互参観を行う。 など

#### より確かに ～校内研修の充実に向けて目指すこと～

##### 「意図の明確な授業公開を行いましょう」

- 例えば・学年団や教科担当等で行う小規模な授業公開を全員が行う。
  - ・研究テーマに基づく公開研究会を行い、外部からの多様な意見を取り入れる。
  - ・地域公開実践において、全員が同じ教科や領域の授業を公開する。 など

## 自主的な学びをはぐくむ

子どもの『確かな学び』を実現するためには、学校として学び方の約束を統一するなど、落ち着いて学習できる環境を整備するとともに、努力を適確に評価しながら、望ましい学習態度を育成することが必要です。

そのためには、学習常規の徹底を図ることや、「できた！ わかった！ 楽しい！」といった学習での達成感を味わわせることによって主体性（やる気）をはぐくみ、持続させることが大切です。

### 視点1 「学習常規の確立・徹底」

#### Step1 学習常規の策定

- ・学校としての学習スタンダードを確立し、教員間で徹底しましょう。
- ・子どもの実態を捉え、段階に合わせたレベルを設定しましょう。

#### Step2 全教室（校内各所）への掲示等による周知

- ・いつでも確認できる工夫をすることで、習慣化させましょう。
- ・掲示や通信等で、保護者や来校者にも情報を発信しましょう。

#### Step3 指導の徹底・継続

- ・必要性、重要性を十分理解させた上で指導し、自律的な態度を育みましょう。
- ・決めたことは必ず指導し、徹底・継続させるようにしましょう。

#### 学級・学年経営上のポイント

- ・理解や協力を得るための年度当初に十分な説明を行う。
- ・定期的なアンケートや各種通信等を活用して保護者の要望を把握する。
- ・指導の共通理解と協働を進めるための定期的な確認をくり返す。

### 視点2 「主体的な学習態度を育成する」

#### <教科指導の充実>

- ・各教科の1年間の学習の見通しをもたせましょう。
- ・複数体制の指導や習熟度、課題別の指導などの個に応じた指導の充実を図りましょう。
- ・思考力・判断力・表現力を育成する場を指導過程に位置付けるとともに、校内研究との関連も明確にしましょう。
- ・放課後や長期休業中の学習サポート等で、学習内容の定着を図る取組も効果的です。

### 視点3 「子ども理解を指導に生かす」

#### 日常の観察

日常の子どもとの様々なふれ合いを通して、子どもの様子を観察しましょう。

#### 情報共有の場

教育相談の場を意図的につくり、学年団や学校全体での情報交換の場を計画的に設定しましょう。

#### 集団を見取る 方法の確立

客観的な評価結果を利用しましょう。

- ・QU ・ASSESS
- ・生徒指導支援ツールなど

#### 学級・学年経営上のポイント

- ・子どもの実態を多面的に捉える。
- ・子どもの声を受け止め、指導の改善につなげる。
- ・個々の実態だけでなく、**集団としての成長**を的確に見取る。

### 視点4 「『家庭・地域における学び』との連携」

#### ◎授業と宿題の関連

- ・授業で学習した内容を踏まえ、宿題の出し方を工夫する。

#### ◎学習習慣の定着

- ・家庭学習の仕方や内容の工夫などについて指導し、学習習慣の定着を図るとともに、自主的に取り組む態度を育む。

#### ◎認められる場面の設定

- ・家庭や地域に教育活動を積極的に公開し、日常の家庭学習の積み重ねを発信する。
- ・参観の視点や授業で目指す子どもの姿などをあらかじめ学級通信等で知らせておく。
- ・感想カードを配布し、家庭や地域の意見を聞き取り、子どもにがんばりを認める声を伝える。

# 学校と家庭が共に育てる

子どもの『確かな学び』を支えるためには、規則正しい生活や家庭学習の習慣化など、子どもたちの自律的な態度をはぐくむ取組を、学校と家庭が一体となって進める必要があります。そのため、学級懇談会や学級通信を活用して、

- ・学校と家庭で子どもたちの生活状況の交流の機会を設ける
- ・各家庭に「家庭で取り組む『は・こ・だ・て』」の活用を促す

など、計画的な働きかけを行ったり、継続的に検証し、その成果を発信することが大切です。

- 「ノーテレビ(ゲーム)デイ」の定期的な設定や、ゲームやパソコン、携帯電話にかかわるルールや定期的な点検を呼びかけます。
- 「早寝・早起き・朝ご飯」のチェック期間を設定し、生活習慣の見直しを呼びかけます。

**「家庭への働きかけ」の例**  
 ☆**パソコンやゲーム、携帯電話などの、我が家のルールの設定**

- 記録、報告、説明、感想など様々な様式を用いて書くなど日常の授業で書いてまとめる活動を計画的に行います。
- 字数や構文などの条件を示して書く活動を、授業に位置付けます。
- 間違いやつまずきについて、自分の言葉で分析してノートにまとめるなどの学習活動を展開します。

言葉を使って考え、表現する学習の工夫

- 自分の考えを整理する文章を書く学習
- メモや手紙を書く構文の工夫
- 間違いの際等々をノートにまとめる学習など

言葉の力を付ける学習

- 単語、ひらがな、カタカナを覚えているか

学校での学びをより確かにしたり、学び方を身に付ける家庭学習

- 学習時間(学習×16分)の計画づくり
- 学習する場所の整理整頓
- 学習方法についての話し合い など

定着を図る家庭学習

- 家で習った内容を復習してみようかな

- 「家庭への働きかけ」の例**  
 ☆**家庭での「役割」(食器洗い、衣類をたたむなど)を決めた取組**  
 ☆**「家族読書週間」の設定**

**「家庭への働きかけ」の例**  
 ☆**メモや手紙、日記などを書く機会の設定**

- 地域のイベントを紹介するとともに、日記や報告からその成果を把握して発信します。
- 定期的な教育相談で家庭生活の様子や状況を把握したり、家庭訪問で家庭における取組を聞いて、よさや頑張りやを認めたり、学級で紹介したりします。
- ※プライバシーには十分留意します。

**「家庭への働きかけ」の例**  
 ☆**「家庭学習チェックシート」などを作成し、保護者も一緒に日常生活を見直す機会を設定**

- 授業と宿題、家庭学習を関連づけ、成就感を味わわせたり、学ぶ価値を実感させたりします。
- 「家庭学習のてびき」などを活用し、予習復習を含めた家庭学習の方法や内容を定期的に確認します。
- 家庭学習の時間を確保するために、「強化週間」などの設定をします。